令和 3 年度 東京都自立支援協議会交流会、セミナーの報告について

【1】 令和 3 年度 東京都自立支援協議会交流会

令和 3 年 9 月 27 日に東京都自立支援協議会主催のもと、各自治体の自立支援協議会関係者を対象にオンラインによる交流会が実施され、本区からは、本会、部会員含め、3 名の委員及び事務局 1 名が出席しました。

当日は、ミニシンポジウム及びグループ討議が行われました。概要については下記のとおりです。

1 テーマ

誰しものが望む地域で希望する暮らし方を実現するためには
～そのために地域協議会はどんなことができるのか～

2 シンポジウム概略

ミニシンポジウムで伝えたいこと

私が希望する暮らし方とは？ 希望する暮らし方を実現するために何が必要か？
地域協議会として何ができるか？

(1) 私が希望する生活とは（東京都自立支援協議会副会長）※障がい当事者

様々な人とつながれる、誰しものが必要なサービスをうけられる、それぞれの長所を伸ばし、他者が苦手なところを自分がサポートする

➡インクルーシブを当たり前！ どんなに重度になっても今の生活を続けていきたい！

(2) 私の希望する暮らしとは（障がい者ピアサポーター）

スティグマを乗り越えていく、自尊心の萎縮の解消と適切な支援関係構築、社会的リカバリーと内面的リカバリーの両論、社会的役割等の再構築

➡国民の障がい者への理解はすすんでいない、偏見があるのは事実。地域での暮らしが当たり前だと思って欲しい！

(3) 協議会としてなにができるか？

協議会の課題は、制度に関することなどが中心で、個別のことを協議する内容になっていない。自立支援協議会で様々な課題を扱えるために、色々な人の知恵、人材が必要。協議会では当事者の声どう実現するのが課題。

3 グループ討議

各参加者の区市町村における自立支援協議会の課題や工夫について討議を実施。

(1) テーマ 1：課題の共有 それぞれの協議会で取り組んでいることは何か？

- ・ 委員（障がい当事者）今の地域で死ぬまで 1 人暮らしをしたい。住んでいる地域には、自分

が入所できる医療的ケアの重度の施設がない。施設に入所せず、地域で暮らしていくのであれば、経済的に自立をしなくてはならない。最近、ロボットの遠隔操作で在宅の仕事ができるようになった。今後、身体障がい者の進行が更にすすんでも続けられる仕事。このような事例を生かし、障がい者の就労について、今後も力を入れて取り組んで欲しい。

- ・ 障がい当事者部会では、個別の相談になりやすいため、当事者の意見等をどう汲み上げていくのが課題がある。
- ・ 障がい当事者部会自体がないので、立ち上げようと取り組んでいる。
- ・ 事業所に対して研修プロジェクトチームを立ち上げている。
- ・ 障がい福祉分野と学校との連携が難しい。
- ・ 障がい当事者部会に他の部会から協議事項をすすめるにあたり、当事者の方に聞きたいことを挙げてもらい、当事者部会の議題として取り扱っている※（板橋区）。

(2) テーマ2：目標設定「自分たちの地域（協議会）へ持ち帰ること」

- ・ 協議会を形骸化せずに、地域と連携して、施策に結びつける作業が重要。
- ・ 障がい当事者の声をどのように汲み取るか。それをどう形にするのが課題。
- ・ 障がい当事者部会がない自治体については、立ち上げを目標とする。

※ 上記は事務局が参加したグループ討議の一例となります。

【2】令和3年度 東京都自立支援協議会セミナー

令和3年12月13日に東京都自立支援協議会主催のもと、東京都自立支援協議会セミナーが東京都庁第一本庁舎5階大会議場で開催されました。事務局からは2名が出席しました。

1 テーマ

本人中心の暮らしはこうして実現する！

2 講演内容

全国の地域移行・地域生活の効果的な支援モデル

～本人の望む暮らし・家族、支援者、地域は変わる～

- ・ 全国の地域移行・地域生活の効果的な支援モデルをプログラム評価に基づいて報告。プログラム評価とは制度があっても効果がない仕組みのやり方を振り返る方法論。いい事例の調査（11年かかってグループホームに移行した人の話など）を実施し、内容について研究を行う。
- ・ いい事例の調査において、地域移行に取り組んでいる事業所の「ゴールミッション」の回答の一つに、本人の奪われてきた経験を取り戻す！体験したことがないものを選ぶことができない！など。

3 パネルディスカッション

地域移行、私の思いは伝わった？ パネリスト（障がいや難病のある方とその支援者）

(1) 私の思い伝わっている？

- ・ グループホームではなく、本当は一人暮らしをしたいが、難病で通院が多く、服薬管理等様々な課題があり、一人暮らしできるのか？不安だったが、あきらめず、支援員に相談した。➡本人の気持ちを中心に支援体制が組まれる。
- ・ 自分の声を聞いてくれる、本当の気持ちと言える支援者との関係性が重要。

(2) わたしの退院を今改めて振り返る。

- ・ 10年以上入院していた障がい当事者が地域移行を利用して一人暮らしを開始。8年目の現在の状況。➡入院していた頃は自分では何もできないと思っていた。すべてガラス越しの景色だった。地域で暮らすようになって、やればできると思った。地域に住むことは思っている以上に寂しくなかった。
- ・ 地域移行の導入時に、自炊したい、料理をやってみたいという思いがあり、体験宿泊を実施。食事作りや食材の買い物体験を通して自信に繋がり、一人暮らしのモチベーションに繋がった。➡あきらめないでいい、サポートしてくれる人、寄り添ってくれる人がいると思えた。

主なコメント

- ・ こういう生活をしていきたいという自分できめたことが大事。やらされているでは頑張れない。
- ・ 色々な人を頼りながら生きていくということが自立。
- ・ 福祉の仕事は個人のセンスと捉えられやすいが、それでは引き継がれていかない。プログラム評価等を取り入れたり、客観的な視点で仕組みづくりをするのが、協議会の役目である。

※ 上記は事務局の聴講内容について、聞いた一例となります。